



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

9. 「シャインマスカット」の1月下旬加温で新梢を順調に伸長させるシアナミド剤の処理

[要約]

「シャインマスカット」の1月下旬加温作型において、発芽予定の2～4週間前にシアナミド1%液を結果母枝に処理すると、発芽後に伸長の停滞する新梢が少ない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「シャインマスカット」の加温栽培では、発芽後に新梢伸長の停滞が散見される。このような新梢は、伸長を促すために摘穂を行う必要があり、発生が多い場合は着房数の不足を招く恐れがある。そこで、発芽前のシアナミド剤の結果母枝への散布が生育時期、新梢伸長及び花穂着生に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 生育は、発芽4週間前である1月4日処理区では対照区に比べてやや前進する。一方、発芽2～3週間前である1月16日処理区では生育時期の前進はほぼ認められない（表1）。
2. 発芽約2週間後の新梢長は、1月4日処理区は対照区に比べて長いものの、新梢の長さにはばらつきが大きい。1月16日処理区は対照区に比べてやや長いものの、新梢の長さのばらつき程度には大差がない（表2）。
3. 発芽約2週間後に新梢長が5cm以下で停滞する新梢の割合は、シアナミド剤を処理した両区ともに対照区に比べて明らかに低く、伸長が順調である（図1）。
4. シアナミド剤を処理した両区の花穂着生率及び新梢当たり花穂数は対照区に比べて劣ることはなく、花穂の形態異常等は観察されない（表3）。
5. シアナミド剤を処理した両区における満開期の樹相及び結実率は、対照区と大差がない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、12月下旬から保温し、1月下旬から6月中旬まで17℃で加温している。
2. シアナミド剤は、開封後は20℃以下の冷暗所で保存する。
3. 安定した効果を得るため、シアナミド剤は単用で使用し、液肥や農薬と混用しない。
4. 樹勢が極端に弱い樹では、芽枯れ等の薬害の恐れがあるため使用しない。
5. 処理時期が早すぎると、発芽が早まるものの個々の新梢伸長にばらつきを生じる可能性がある。また、毛じから緑色の芽がのぞいた段階で処理すると薬害の恐れがある。
6. 処理時の防護具着用や処理当日の飲酒の厳禁等、本剤使用上の注意事項を厳守する。
7. シアナミド処理にはCX-10（商品名）を用い、10倍希釈（シアナミド1%）で実施している。
8. 展着剤は加用しない。



[具体的データ]

表1 1月下旬加温栽培「シャインマスカット」におけるシアナミド処理が生育ステージに及ぼす影響（2018年）

区 ^z	保温開始 (月/日)	加温開始 (月/日)	発芽 (月/日)	満開 (月/日)	果粒軟化 (月/日)
1月4日処理	12/26	1/22	1/31	3/19	5/4
対照	12/26	1/22	2/ 2	3/23	5/5
対照区との差	—	—	-2	-4	-1
1月16日処理	12/26	1/22	2/2	3/21	5/5
対照	12/26	1/22	2/2	3/23	5/5
対照区との差	—	—	0	-2	0

^z 1月4日処理区、1月16日処理区ともに2樹ずつ供試。各樹を主枝単位に2区に区分し、一方にシアナミド1%液を散布し、もう一方の水のみ散布した対照区と比較

表2 1月下旬加温栽培「シャインマスカット」におけるシアナミド処理が新梢長に及ぼす影響（2018年2月19日）

区	新梢長(cm)	
	1月4日処理	1月16日処理
シアナミド	15.1	12.2
対照	9.1	10.1
ANOVA ^z		
処理	**	**
樹	n. s.	**
処理*樹	n. s.	n. s.

^z 分散分析により、**は1%水準で有意差あり、n. s. は5%水準で有意差なし

表3 1月下旬加温栽培「シャインマスカット」におけるシアナミド処理が花穂の着生に及ぼす影響（2018年）

区	1月4日処理		1月16日処理	
	花穂着生率(%)	新梢当たり花穂数(個)	花穂着生率(%)	新梢当たり花穂数(個)
シアナミド	86.5	1.2	89.6	1.3
対照	88.2	1.2	88.0	1.1
有意性 ^z	n. s.	n. s.	n. s.	*

^z 花穂着生率は χ^2 検定により、花穂数はマン・ホイットニーのU検定により、*は5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なし

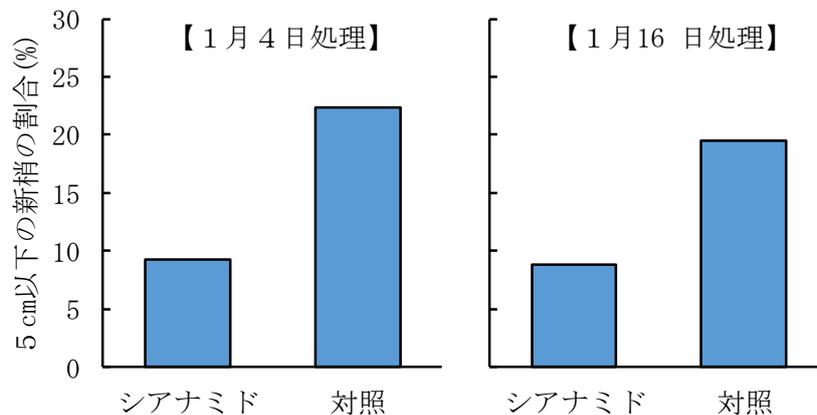


図1 1月下旬加温栽培「シャインマスカット」におけるシアナミド処理が5 cm以下の新梢の割合に及ぼす影響（2018年2月19日）

[その他]

研究課題名：加温栽培「シャインマスカット」の高糖度・高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2016～2020年度

研究担当者：安井淑彦、中島讓、久保田朗晴、藤原聡

関連情報等：1) [平成16年度試験研究主要成果、17-18](#)